

※製品到着後、直ちに ほ場に放飼してください。放飼できない場合は  
10～20℃の冷暗所で保存して、必ず使用期限内に放飼してください。

規格：ヤマウチアシボソトゲダニ 100000頭入／1箱（50000頭／5L x 2袋）

外装：ダンボール箱

内装：不織布袋（30x40cm x2袋） ※放飼用10ccスプーン同梱



## ＜適用表＞

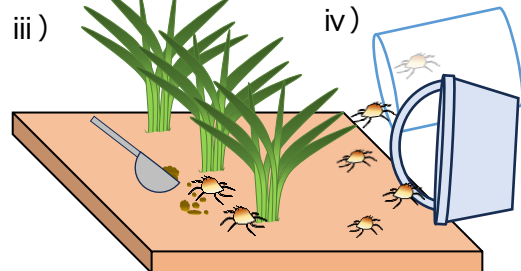
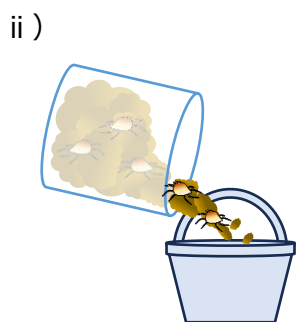
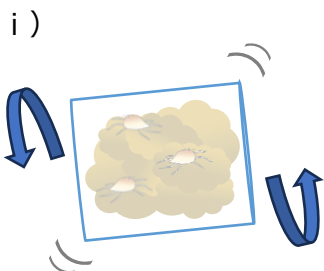
2025年8月現在

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ヤマウチアシボ ソトゲダニを 含む農薬の 総使用回数
にら (施設栽培)	ネダニ類	100頭/m <sup>2</sup>	発生前～ 発生初期	—	株元 放飼	—

使用期限：5日（10～20℃で保存した場合）

## 放飼方法

- 不織布袋を開封する前に、ゆっくり20回以上回転させて攪拌してください。
- 放飼しやすいようにバケツ等の容器に移し、再度ひしゃく等で攪拌してください。  
培土中にトゲダニ（以下、天敵）が偏在しており、土の中に隠れやすいため、下からすくい  
あげるように混ぜると均一になります。  
袋には天敵が残っているので、開いた状態で ほ場に静置してください。
- 1m<sup>2</sup>あたり放飼用スプーン1杯を作物の株元に落とします。  
天敵の偏在を防ぐために、適度に容器内を混ぜながら放飼作業を行ってください。  
ほ場全体に均一になるようになるべく多くの株に放飼してください(10aあたり2袋分)。
- 放飼後、使用したバケツ等の容器には天敵が残っているので作物の陰に静置してください。



培地は作物上から落とすのではなく  
株元に近づけて落としてください。  
天敵が根際に速やかに移動できます。

移し終えた不織布袋、放飼に使用した  
容器には天敵が残っているので作物の  
陰に静置してください



# トゲダニキング® を利用したニラでの防除体系案 <1年株作型の例\*>

6月	7～8月	9月	10月	11～4月	5月
定植		収穫開始	天井被覆展張		栽培終了
※天敵に長期間影響がある剤 ・グレーシア ・トクチオン ・フォース 放飼前に使用しない	天敵放飼前に アプロード フロアブル** 500～1000倍 1～3L/m <sup>2</sup>	放飼前に左記薬剤でネダニ密度を十分に下げてから 天井被覆展張後に放飼 <b>トゲダニキング®</b>		天敵活躍期間 天敵に影響の少ない薬剤を併用しながら病害虫防除	

\*2年株作型の場合、高温下での効果は著しく下がるので夏季には化学農薬防除への切り替えを推奨します。  
\*\*アプロードフロアブルの使用時期は、収穫14日前までです。

## トゲダニキング® 放飼における注意点

2025年8月現在

### <トゲダニキング放飼後の殺虫剤について>

農薬を使用する際には必ずラベルを確認し、正しくご使用ください。

対象病害虫	影響の少ない殺虫剤	若干影響ある殺虫剤	影響のある殺虫剤
ネダニ類	—	アプロード	グレーシア乳剤、トクチオン細粒剤、トクチオン乳剤、ネコナカットフロアブル、フォース粒剤、ランネット45DF
アザミウマ類	アドマイヤー1粒剤、アフーム乳剤、カスケード乳剤、ファインセーブフロアブル、モスピラン顆粒水溶剤	ディアナSC	—
ネギアザミウマ	コルト顆粒水和剤、ダントツ水溶剤	アグロスリン乳剤	ハチハチ乳剤、リーフガード顆粒水和剤
その他	サンクリスタル乳剤	—	—

※ 天敵は予防剤であり、効果的に使用するには、放飼前に害虫を徹底防除しておく必要があります。商品到着時に害虫が散見される場合は上記の薬剤で防除を行ってください。

※ 上記薬剤以外で、特に合成ピレスロイド系薬剤や有機リン系薬剤、カーバメート系薬剤、ネライストキシン系薬剤、ピラゾール系薬剤などは影響が大きく長期間影響が残るので、天敵の放飼前にこれらの薬剤を散布していた場合は天敵がうまく定着しないことがあります。

化学農薬切り替え時  
トクチオンでネダニ密度を  
ゼロに近づけましょう  
天敵影響大！

放飼前～放飼後は併用できません  
**トクチオン®** 細粒剤 規格：3kg

定植時  
6～9kg/10a  
全面土壌混和  
または  
植溝土壌混和

**トクチオン®** 乳剤

収穫21日前まで  
2000倍、3L/m<sup>2</sup>  
株元灌注  
規格：500ml



根張りを促進して作物の健全な育成をサポート

**トリコデソイル®**  
有用微生物入り土壌改良資材



育苗期

規格：250g

- 1000倍に希釈して使用。
- 育苗箱 1箱あたり500～1000mℓ または育苗床 3ℓ/m<sup>2</sup>を灌注施用。

本ば定植後

- 2000～4000倍を目安に希釈して、250g/10a（500ℓ～1000ℓ）を株元に灌注してください。
- 土壌消毒後の施用がお勧めです。土壌消毒により有用菌が減少するため、ガス抜き後なるべく早く施用してください。
- 定植直後の水やりの際に同時施用することもできます。
- **定植時、捨て刈り後、収穫後の施用が効果的です。**

何かご不明な点がございましたら、お問合せください。 営業本部 03-5203-9350